

# ワクワク通信

No.3 令和7年12月

## 第2回連携協議会

10月8日(水)に甲佐高校視聴覚室において、第2回連携協議会を開催し、これまでの取組の報告と研究の進め方について協議を行いました。

職員・生徒アンケートや公開授業、合同研修での意見交換等を参考に、本後の研究の進め方として、4つの提案をしました。併せて、共同学習の授業づくりのツールとしての「ワクワク交流及び共同学習検討シート(略称:ワクワクシート)」「共有スペース(ワクワクルーム)」についてもカリキュラムマネージャーから説明しました。

- 1 交流及び共同学習の具現化 2 職員研修の充実
- 3 地域との連携強化と地域貢献 4 検証授業の実施

委員の方々からは、次のような意見をいただきました。

- ワクワクルームの設置については、教師がどこまで見守るか難しい点はあるが、安全・安心が確保されたうえで、生徒の自然な交流の機会は必要。
- 共同学習として、音楽から始めるのは良い。この授業を見て他教科の先生も、自分ごととして考える機会となればよい。
- 商業施設を利用した、インターンシップ・現場実習の実施など、地域の協力を得ながらできることもあるのでは。
- 2校で1つの取組を進めるには、不安要素・懸念材料があるのは無理はない。  
対話を重ねることが重要。その積み重ねが信頼・相互理解を構築していくと思う。  
お互いの人材や外部人材を活用することで、負担感が軽減すれば良い。
- それぞれの得意分野を提供し、共有し、授業の質の高まりを期待する。
- 生徒同士は、私たちが持っている以上にすぐに仲良くなれるのでは。ハード面、時間割のずれなど、少しでもハードルを下げていければと思う。

協議の後半は、九州ルーテル学院大学の河田将一教授から、「交流及び共同学習の推進に向けて」というテーマでスライドを使いながら、法的根拠、基本的な考え方や研究の進め方についてご助言をいただきました。一部を紹介します。

- 負担にならない範囲で、甲佐高校は「特別支援教育の視点」、上益城分教室は「教科指導の視点」を入れた、指導案を作成してほしい。
- 両校の職員の交流が深まると、生徒にもよい影響が出る。両校の職員の話し合いの方法として、SWOT分析を使用してはどうか。両校がそれぞれにとって、強力な外部環境としての協働の機会(チャンス)や強みとなる。



○共有スペースが、生徒にとってゆっくり過ごせる場所、誰からかの支援を受けられる場所になると良い。

河田教授には「ワクワク」という言葉に注目していただき、「課題は解決に向かうためのワクワクするものであり、相互にワクワクしながら和やかに進むと良い」とお言葉をいただきました。

#### **公開授業 10月23日(木)、27日(月)、30日(木)**

高校内に分教室を設置している高校、特別支援学校、連携協議会委員の方々を招いて、甲佐高校文化祭「青垣祭」に向けた共同学習「音楽科」の取組を見ていただきました。授業参観後は、情報交換会を実施し、本事業の説明や各校での取組の様子、成果と課題など意見交換を行いました。それぞれ設置された時期、地域の実情や地理的環境が異なり、取組の様子にも幅がありますが、交流及び共同学習の意義についてはそれが認めるところであり、推進したいという意見が出されました。

実施上の課題として、授業の目標設定や評価の視点の共有、打合せの時間確保、時間割の調整の困難さ等があげられました。

ご参加いただいた方々にお礼申し上げます。



#### **青垣祭 11月7日(金)・8日(土)**

甲佐高校の芸術選択生徒・分教室生徒との合同発表は8日に行われました。

「平和」のテーマの下、合唱・合奏・ダンス・手話等を披露しました。

生徒たちは、分教室ホールや体育館で演目の一部「風になりたい」の合同の練習を行ってきました。最初はぎこちなかった生徒も本番では練習の成果を十分に發揮し、会場からたくさんの拍手をいただきました。やり終えた生徒の顔は達成感と喜びに輝いていました。

合奏・合唱のほかにナレーションを担当する生徒もあり、両校の生徒が自然にかかわる姿が、青垣祭をとおして随所で見受けられました。この実践が本事業の推進力となることを期待します。

